2025 冬　子育て家庭アンケートレポート（概要）

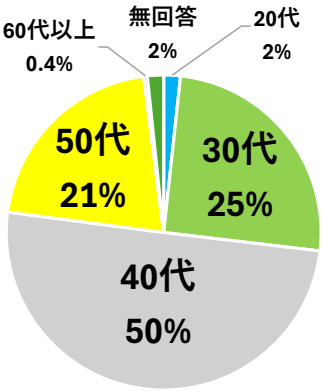
1　調査概要

目的：物価高騰の生活や家計への影響、年末年始の過ごし方、政府の取組に対する考え等について実態を把握することで、困窮子育て家庭の抱える課題を明らかにし、必要な支援の検討に向けた示唆を得ること。
対象：キッズドア・ファミリーサポート登録世帯
調査期間：2025 年 10 月 31 日～2025 年 11 月 10 日
回答数：1,924 件（回答率：43%）

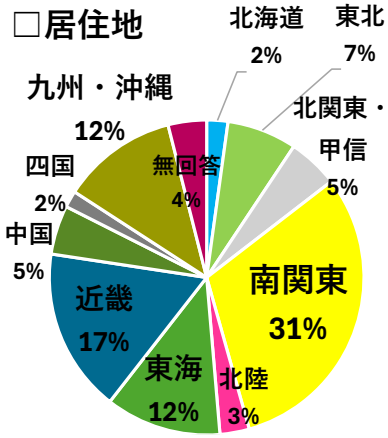
●キッズドア・ファミリーサポートとは？　https://kidsdoor-family-support.jp/
「キッズドア・ファミリーサポート」は 2020 年にコロナ禍に対する緊急支援という形で発足しました。現在では、困窮子育て家庭の保護者を対象に、困窮から抜け出すための物資・情報・就労支援を行っています。

回答者のプロフィール（n=1, 924）

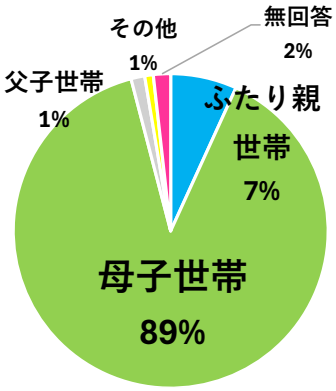
□年代



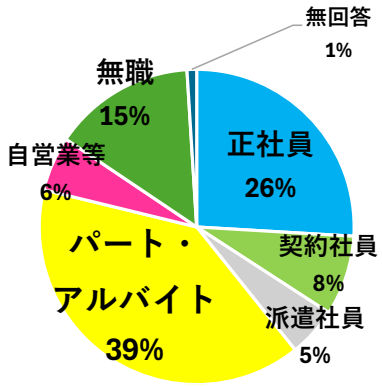
□居住地



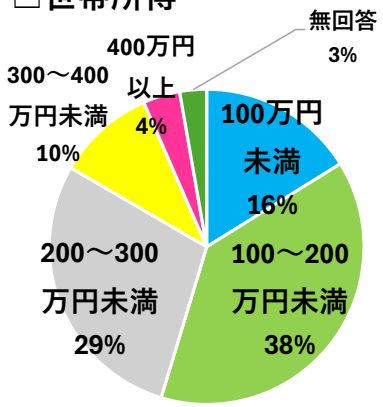
□世帯構成



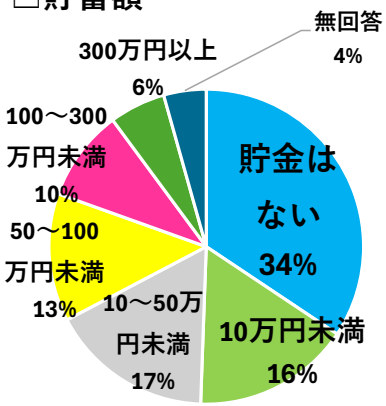
□就労形態



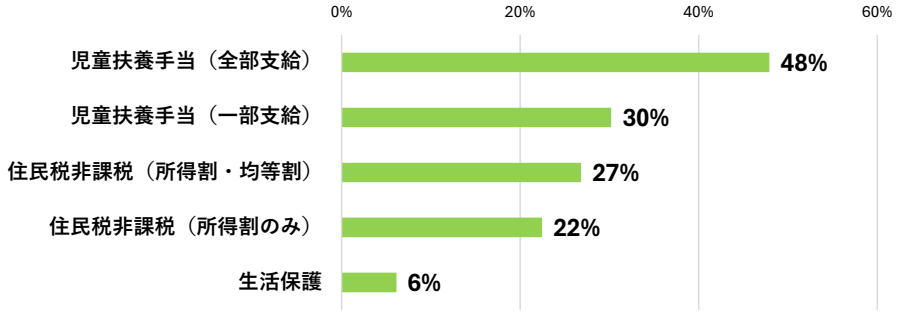
□世帯所得



□貯蓄額



□受給している公的手当（複数回答）



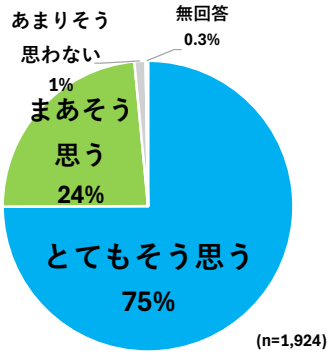
©2025 認定 NPO 法人キッズドア

2 調査結果概要

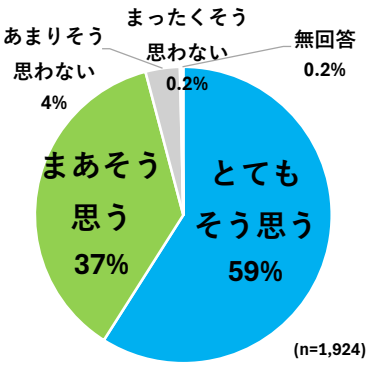
2.1 物価高騰の生活や家計への影響

- 全体の 99%が、コロナ禍以降、経済的に苦しい状況が続いていると感じている（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計）。また、約 6 割が、自身の家庭は子育て家庭の中でも生活が苦しい方かとの質問に「とてもそう思う」と回答。
- 物価高騰の生活や家計への影響の上位は、「貯金ができなくなった」・「保護者の食事が減ったり、栄養バランスが悪化している」・「電気やガスの利用を控えている（冷暖房、お風呂やシャワー、照明など）」であり、いずれも 7 割超が選択。子どもの健康状態の悪化は 13%。物価高騰の影響は、ファミリーサポート登録世帯と所得 300～600 万円未満の一般世帯との間で大きな差がある。

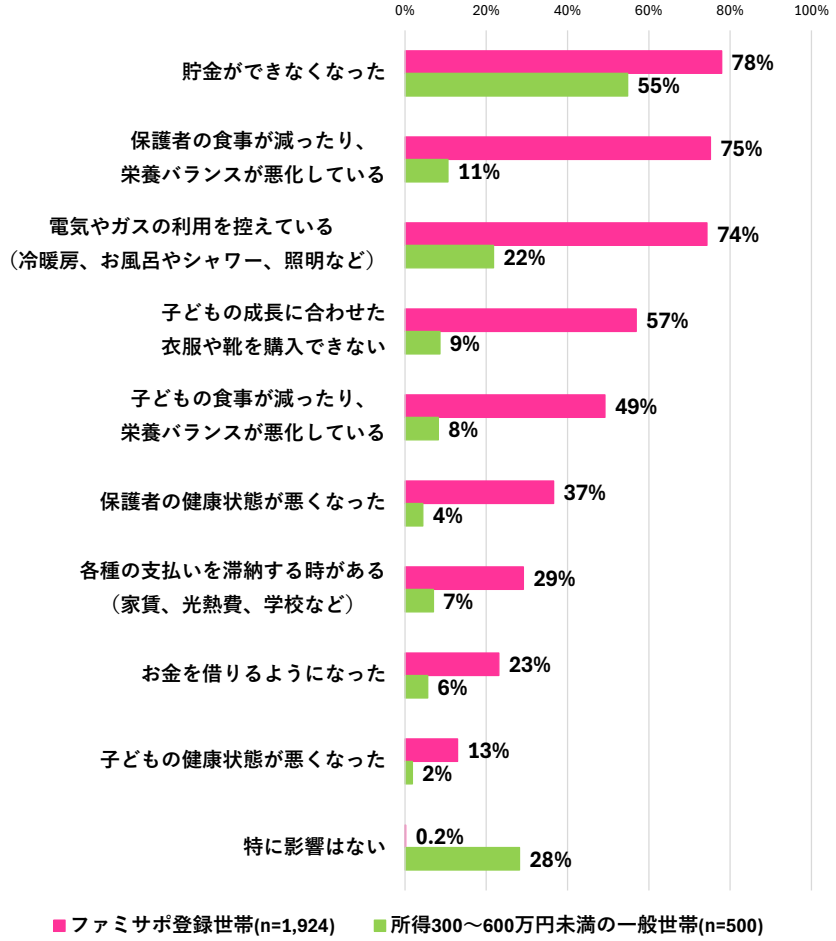
□コロナ禍以降、経済的に苦しい状況が続いている



□自身の家庭は子育て家庭の中でも生活が苦しい方か



□物価高騰の生活や家計への影響（複数回答）



※「所得 300～600 万円未満の一般世帯」の数値は当団体調査より（調査項目：本調査と同じ、調査主体：キッズドア、調査協力：株式会社クロス・マーケティング、調査対象：株式会社クロス・マーケティングのアンケートパネルを利用、調査期間：2025 年 11 月 12 日～14 日）。

現在困っていることや支援がほしいこと（自由記述）

- 食費が高くてこどもの栄養が心配です。2 人育てていますが、2 人とも低身長で、通院するほどです。でも食費にかけるお金がありません。
- 食費が高くなる一方で困っています。子どもは食べざかりで、お腹いっぱいにしてあげたいので、自分が食べる分をセーブするしか方法がありません。貧血状態が続いていますが、病院に行ったら薬をもらい続けることになると思うので、なかなか病院にも行けません。
- 寒さ厳しい冬季がやってきました。寒冷地の冬は、多少の我慢程度ではありません。生命にかかわる寒さです。灯油もガソリン並みに高いです。燃料費が切実に辛く、重く家計にのし掛かっています。

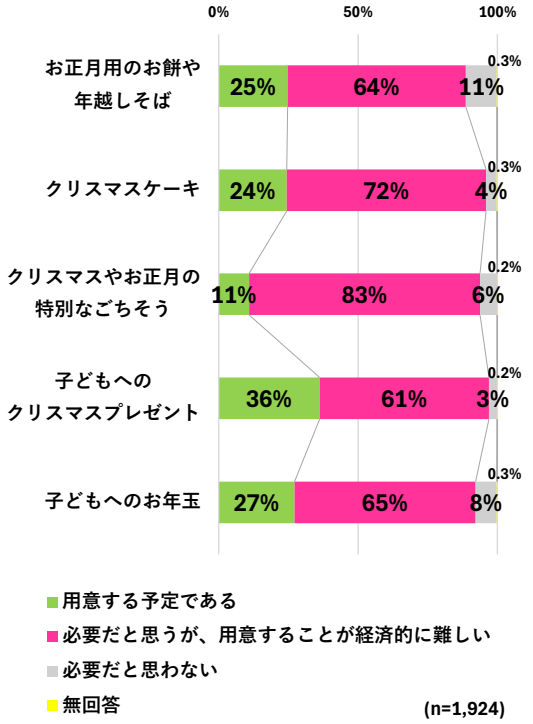
©2025 認定 NPO 法人キッズドア

- コロナの時期から今に至る迄、ずっと生活が苦しい。真面目に働いていても時給は上がらず、物価と保険料が上がり、余裕が無くいつもお金の心配をする事に疲れた。
- 困っているのは、物価高です。物価が 1.5 から 2 倍になったにもかかわらず、私のパートの時給は 50 円アップしただけです。以前と同じように働いていますが、とても生活が苦しくなりました。1000 円以内に済ませようと最低限の買い物をスーパーでしても、1500 円や 2000 円になります。塵も積もればで、月末に困窮します。生きていくのが精一杯。子どもたちが大きくなるまで頑張ろうと思っていますが、疲労と睡眠不足で、時々全てを投げ出したくなる瞬間があります。
- 年末年始は冬休みもあり食費、光熱費も倍になるので今の収入だけでは足りなく仕事を増やすにしても夜間子供を置いて仕事に行く事もできずどうしたらいいのか困っています。食料支援をしてくださる所もなかなかなく借入ももう限度額いっぱいいっぱいなので 1 日の食事や量を減らさなくちゃなと思っています。
- 5 人子供がおり、さまざまなお金がかかるもの全てにおいて困っています。学費も数ヶ月払えていなく、待ってもらったりしています。食費にも結構かかり、日用品も人数が多い分、消費が早く、水道、ガス電気などの金額も高くなるのでとにかく全体的に困っています。

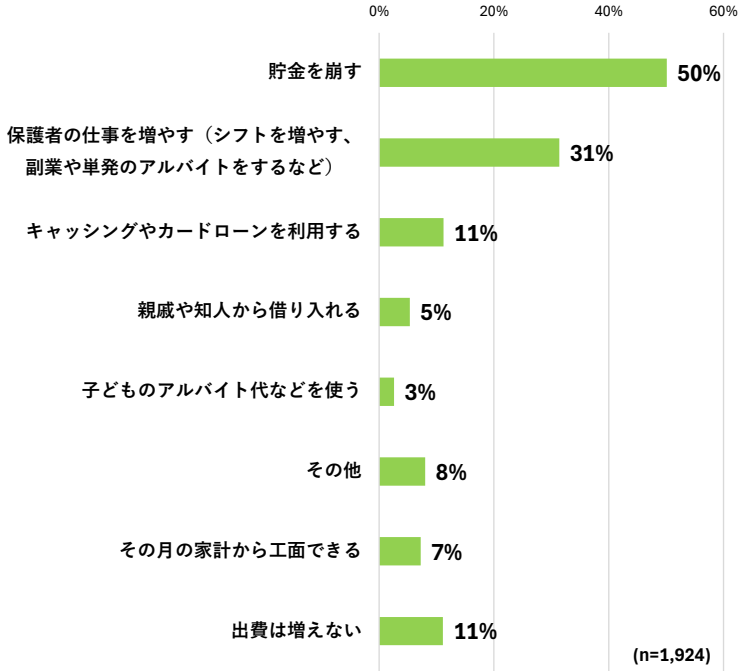
2.2 年末年始の過ごし方

- 年末年始に向けて家庭で用意するものを尋ねた結果、「クリスマスケーキ」や「子どもへのクリスマスプレゼント」、「子どもへのお年玉」など 5 項目すべてで、「必要だと思うが、用意することが経済的に難しい」が最多であり、「用意する予定である」を大きく上回った。
- クリスマスやお正月といった年末年始のイベントのために増える予定の出費は 1 万円未満が約 4 割であり、その工面の方法としては、「貯金を崩す」が半数、「保護者の仕事を増やす」が約 3 割。
- 就労している回答者の中には、ふだんの休み以外に年末年始の休暇が「ない」（17%）という回答もあり、そのうち 4 割超が、休暇がない主な理由として「家計のために働く必要があるから」を挙げた。

□年末年始に向けて家庭で用意するもの

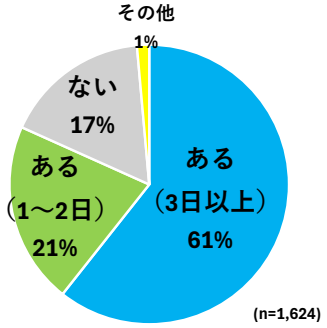


□年末年始のイベントで増える費用の工面（複数回答）

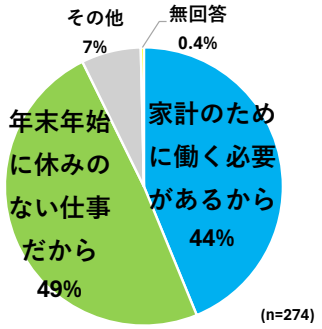


©2025 認定 NPO 法人キッズドア

□ふだんの休み以外の年末年始の休暇



□年末年始の休暇がない主な理由



※左：現在の就労形態として、「正社員」・「契約社員」・「派遣社員」・「パート・アルバイト」・「自営業等」のいずれかと回答した方が対象。

※右：ふだんの休み以外の年末年始の休暇について、「ない」と回答した方が対象。

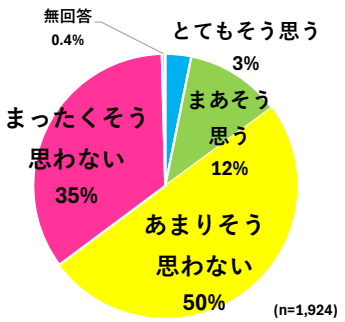
年末年始に向けた心配ごと（自由記述）

- 物価高で何もかも高く、食料が買えません。今までクリスマスにケーキを買ったことはありません。他の家庭と比べてなんで買えんの？と言われたことがあります。買ってあげたいですが、余裕がありません。
- 年末年始、お年玉だけはちゃんとあげたいと思うけど、これから受験費やその後にかかるお金を考えると不安です。
- 年末年始は家族が集まるので、お祝いしたいが、物価高騰を受けて日々の生活も苦しいので、 あまり特別なことができないし、仕事に出ないと家計が回らないので、みんなと過ごすこともできないのが辛いです。

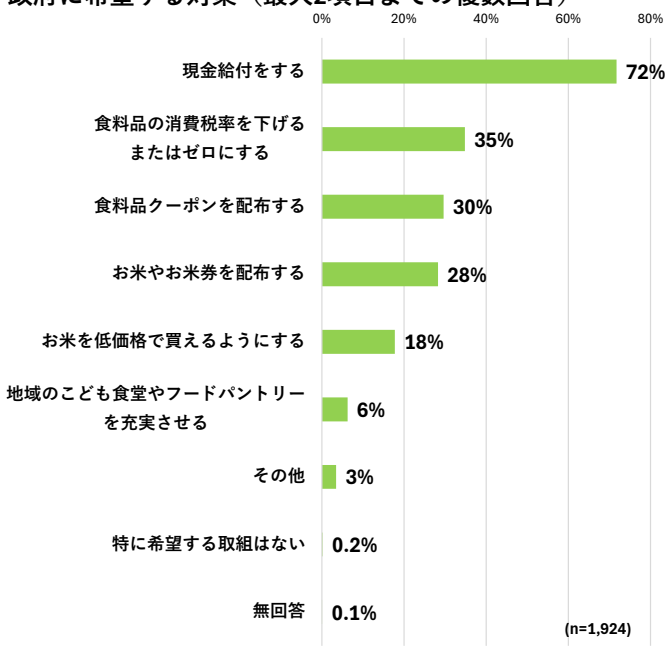
2.3 政府の取組について

- 「物価高騰に対して、政府は困窮子育て家庭の支援に取り組んでいるか」との質問に対しては、「あまりそう思わない」が半数と最多、「まったくそう思わない」が 35%と、大多数の回答者は政府の取組が十分ではないと考えていることが分かった。
- 物価が高騰する中で、子育て家庭が十分な食事を摂れるように政府に希望する対策としては、「現金給付をする」が圧倒的に多く、7 割を超えた。2 位以降は、「食料品の消費税率を下げるまたはゼロにする」、「食料品クーポンを配布する」、「お米やお米券を配布する」が続く。「特に希望する取組はない」は 1%を下回った。

□物価高騰に対して、政府は困窮子育て家庭の支援に取り組んでいるか



□物価高騰下、子育て家庭が十分な食事を摂るために政府に希望する対策（最大2項目までの複数回答）



©2025 認定 NPO 法人キッズドア

2.4 現在の困りごとや希望する支援

- 中学や高校への進学時に必要な制服代をはじめ、通学費用や修学旅行費用など、学校生活に必要なお金の工面に困難を抱えているとの声が多数。高校は授業料無償化でも立替払いが必要となる点、物価高騰が続いても就学援助費が見直されない点などに対して改善を求める回答もあった。
- 物価高騰が続く中、公的支援の所得制限について言及する回答も目立つ。がんばって働いても、児童扶養手当の所得限度を超えると手当が減り、他の支援が受けられなくなり、逆に生活が苦しくなってしまうなど、就労によって経済的自立を目指そうとするひとり親にとって、既存制度の所得制限が収入を増やす上での足枷となっている実態が伝えられた。

現在困っていることや支援がほしいこと（自由記述）

- 来年は中学校と高校の入学が重なるので、学校にかかる出費が不安で今年の年末は苦しいなと思います。不要になった制服のお下がりを安く購入出来たり貰えたり出来るサービスがあればいいのにといつも思います。制服代がなくなるだけで家計がだいぶ楽になる気がします。
- 公立高校受験すると自宅からの交通費がかさみ、近くの私立高校に行くと授業料無償化とはいえ入学金、制服、施設費、修学旅行費等どちらにしても多額の出費が待ってます。行きたい高校に通わせてあげたいのですが、現実はとても厳しいです。
- 来年長女が高校生になりますが、授業料の他の制服代やパソコン購入費がとても心配で借り入れを考えるほどです。どうにか備品化だったり無償化してほしいです。
- 高校はお金がかかりすぎる。授業料の補助は後払いの為１度は払わなくてはならない。その制度を見直してほしいです。
- 物価高で学校にかかる金額が増えているのに、何年たっても就学援助の金額が増えないので、修学旅行費など全然足りない。
- フルタイムで働いているので、児童扶養手当は一部支給です。そうなるとその他の援助は受けられるものがなく、生活保護や住民税非課税世帯よりも経済的には厳しい状況になります。
- 今月から最低賃金が上がり、時給が少し上がりましたが、児童扶養手当等の所得制限は上がらないままです。逆に時給が上がることによって、制限に引っかかる可能性があり、児童扶養手当の額が減額されたり、税金が上がり、結果的に手元に残るお金が少なくなり、余計に生活が苦しくなる場合があります。時給は上がることは嬉しいですが、素直に喜べない。
- 児童扶養手当の限度額ギリギリ超える可能性がありました。医療費や扶養手当、就学支援のことを考え、昇給を断わりました。とても悩ましい選択でした。
- 頑張って働いて、給料が多少上がったら、大学の返済不要の奨学金が対象にならず児童扶養手当が減り、国民健康保険が値上がりもう生きている意味さえわかりません。
- 所得制限なしの支援が増えることで、一般世帯との格差が再び大きくなる。
- 子供が去年の夏休み明け辺りから不登校気味で、まだ一人で家に居させる訳にも行かず働きに行きたくても行けない日が増えています。
- 来年長男が中学に行きますが塾の話が出てもうちは行かせられません。勉強のサポートが無料または安価でしてもらえるサービス等があると良いなと思いました。
- 大学受験のために、模試代、英検代、参考書代、受験代と大学入学前に高額なお金がかかります。塾に行かせてあげることができないため、子供は自力で勉強していますが、他の人より大学受験はハードルが高いです。

この事業は中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」の助成を受け実施しています。

©2025 認定 NPO 法人キッズドア